

2018年度(平成30年度)事業報告書

特定非営利活動法人アジア・アフリカと共に歩む会

2019年 4月 17日

さいたま市中央区大戸5丁目17番1号
特定非営利活動法人アジア・アフリカと共に歩む会
代表理事 久我 祐子
電話番号 048-832-8271

1 事業実施の方針

南アフリカ共和国クワズールーナタール州ウグ郡を中心とした途上国の貧窮地域の学校を学校図書、菜園活動、スポーツ・課外活動を支柱に支援することで、そのような地域の将来を担う子どもや若者の学力、技術、生活能力を総合的に高めていく。

学校図書支援活動事業

ウグ郡ムタルメ・トゥートン・ウムズンベ学区において昨年度の対象校30校のうち、継続支援が必要な学校に図書（日本から送られてきた英語の本）の配布、図書委員会活動の指導、読書推進活動、パソコン技術指導、バイリンガル算数教育を行った。全体的に読書習慣が普及しており、どの対象校にも、時間さえあれば図書室に飛んで来て本を読む生徒がおり、読書を楽しみ、本から学び、他の生徒への読書促進を行う姿も見られるようになった。

昨年度に図書環境の基盤を整えたことで、今年度は州教育省から学校図書が配布されるようになり、対象校の蔵書の充足は州教育省に引き継がれた形となった。また、州教育省主催の図書イベントに積極的に参加したり、各対象校内で自主的に図書推進活動やイベントが行われたりするようになった。

このような現地での引き継ぎと自立を見届け、今年度末をもち対象学区における当会の学校図書支援活動事業は完了した。

日本から送られてきた英語の本は、農業塾リソースセンターおよび対象学区内外の非対象校にも配布した。国内では英語の本を収集し定期的に梱包作業を行った。

学校図書委員会活動のモニタリング指導

対象校15校。TAAA図書指導員が、定期的に対象校を巡回訪問し、図書委員会生徒たちへのサポートとアドバイスをを行い、彼らが今後継続して自立した活動ができるように導いた。特に引き継ぎ後の新図書員生徒が活動内容を理解して自主的に活動を推進できているかのモニタリングと彼らへの指導に注力した。

パソコン技術指導

上記対象校のうち5校。昨年度からの継続校である4校については、TAAA図書指導員が、図書委員会生徒たちにはパソコンを使って図書の貸し出し・返却記録ができるように指導し、菜園委員会生徒たちには帳簿と菜園活動の記録を入力できるように基礎操作技術を教えた。各委員会生徒たちは、日々の委員会活動の中でパソコンを使い、後輩や他の生徒に技術指導ができるようになった。新規対象校である小学校1校においては、29名の生徒がパソコン技術指導を受け修業証明書を取得した。

ジュニア・プライマリー対象の活動（バイリンガル算数授業、図書推進）

ジュニア・プライマリー（プレスクールから小学校3年）4校へは、昨年度に引き続き、日本から送る中古の算数セットを利用したバイリンガル算数授業を行った。後半は算数セットの使い方を習得した教師が、TAAA指導員のサポートなしに、算数セットを活用した授業を行うようになった。TAAA図書指導員は、生徒たちに本の読み聞かせをしたり、図書室に連れて行って読書をさせたり本を借りるように促すなど、読書習慣を育む活動をした。

学校およびコミュニティー菜園支援活動事業

JICA草の根技術支援事業「有機農業塾を拠点とした農村作り」（2016年7月～2019年4月）の最終年として、農業塾では上級コースや再トレーニングコースを設け、おもに塾卒業生対象の指導を行った。JICA事業終了後も卒業生たちが自立して地元環境に合った菜園活動を続けていけるように採種、種や苗の入手方法、伝統的フェンス作り、マーケティング等を教え、また収穫物を利用し活動の幅を広げていけるように、食品加工技術、調理、栄養教育等の授業を行った。今年度末時点で、農業塾卒業生112名のうち59名が菜園活動を続け、うち22名が収穫物を販売している。また、地域住民対象研修会の参加者306名が家庭・グループ菜園を続け、対象校15校の生徒283名が家庭菜園を続けている。指導員は、これらの家庭・グループ菜園を定期的にモニタリング指導したが、それぞれ自分たちの環境や状況に合った方法で工夫しながら菜園を継続していく姿が確認された。後半期は、農業塾を拠点とした農村作りの動きが継続するように、カウンターパートや地元自治体からのサポート体制やネットワーク作りにも注力した。3月に農業塾は、カウンターパート1名と地元スタッフ2名を執行委員とし、NPC（Non Profit Company）として登録され、地元を引き継がれた。

スポーツ・課外活動振興事業

日本ではサッカーボールを収集し梱包した。南アでは、前年度に送ったボールを地域サッカーチームチームと対象校に配布した。現地スタッフが主導して結成したコミュニティー少年サッカーチームへユニフォームの寄贈と技術指導を行った。また、日本側メンバーの現地視察訪問時に、地域のグラウンドを清掃し、他チームとの親善試合を行った。対象地域にはサッカーグラウンドが設置されるようになってきた。娯楽の少ない対象地域において、ボール一つあればお金をかけず大勢と遊べるサッカーは、青少年の健全な余暇の過ごし方として理想的なので、学校外でもサッカーができる環境が整ってきたことは喜ばしいことだ。しかし、グラウンドには地域住民や子供がポイ捨てしたゴミが多く、ボトルの破片も散らばっていることもあり、プレイ中に怪我をする危険性がある。若者の美化・衛生・環境意識を高めるためにも、練習や試合の前に清掃する習慣を育てたいと現地スタッフと話し合った。学校へのボール提供に関しては、勉強は遅れ気味だが「学校でサッカーができる」ことがモチベーションとなり、学校を辞めずに長距離を通学し続ける生徒がいることから、当事業は引き続きドロップアウト防止対策となった。

2 事業の実施に関する事項（2018年4月1日 ～ 2019年3月31日）

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施予定場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (千円)
学校図書支援活動事業	<p>基礎教育支援のための学校図書環境改善および読書推進活動</p> <p><u>日本</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語の本の収集、梱包、発送作業 ・対象地域の母語のラベルを貼った絵本作成 ・算数セットの収集、梱包、発送作業 ・当事業の広報活動 <p><u>南アフリカ共和国</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日本から送った本の配布。現地での本の購入と配布。 ● 学校図書室や学級文庫の設置・拡充・環境改善支援。 ● 読み書き能力を高める学習やアクティビティを推進 ● IT支援対象校でパソコン指導を行う。昨年度の対象校にはモニタリング訪問を行う。 ● ジュニア・プライマリーには算数セットを使ったバイリンガル（英語、ズールー語）算数学習を行う。 ● 図書委員会生徒たちの図書運営スキル強化と自主的な図書推進活動への支援 	<p>日本・南アフリカ共和国ウグ郡 ムタルメ・トカートン・ウムズンベ学区</p>	<p>南ア側 2人 日本側 15人</p>	<p>小・中・高校15校 教師 200人 生徒 5,000人</p> <p>農業塾リソースセンター利用者 (地域住民・教師・生徒) 600人</p> <p>その他(専門学校、他地域の学校等) 3,000人</p>	<p>1,705</p>

<p>学校およびコミュニティ菜園支援活動事業</p>	<p>学校菜園およびコミュニティ菜園における地域環境保全型農業促進指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 有機農業基礎トレーニングコースと上級コース（採種、養鶏、食品加工、栄養、調理など）を実施 ● 塾卒業生への再トレーニングコース（マーケティング、採種、種・苗入手方法や収穫の販売先の情報提供） ● 地域住民への家庭菜園作りの指導、研修会開催 ● 塾卒業生の家庭・グループ菜園のモニタリング、指導 ● 塾卒業生の収穫物販売の指導、アドバイス ● 保育園菜園、学校菜園の指導、モニタリング ● 対象校生徒たちの家庭菜園の指導、モニタリング。生徒対象の農業塾短期コースを実施 ● 地域住民、塾卒業生、対象校生徒たちへの採種技術指導、採種技術の研修会開催 ● 農業塾での育苗と販売、養鶏。 ● 日本の農業専攻大学生の現地派遣。滞在と交流を通して事業対象者と相互に学び合う。 ● 農業塾の現地引き継ぎ準備。引き継ぎ先のNPC（Non-profit company）の登録を支援。 	<p>南アフリカ共和国ウグ郡ムタルメ・トカートン・ウムズンベ学区</p>	<p>南ア側 6人 日本側 3人</p>	<p>コロコロ地域 中央部家庭約100軒 地域周辺学校7校とその生徒74人の家庭 地域内保育園6園</p> <p>トフェット地域 家庭約200軒 地域周辺学校8校とその209人の生徒家庭 地域内保育園5園</p> <p>有機農業塾トレーニングコースを受講する地域住民 約100名（両地域）</p>	<p>13,465</p>
<p>スポーツ・課外活動振興事業</p>	<p><u>日本</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカーボール収集、梱包、発送作業 ・当事業の広報活動 <p><u>南アフリカ共和国</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日本から送られてきたサッカーボールを学校に配布 ● サッカー交流試合 ● 地元少年サッカーチームの育成と支援 	<p>日本・南アフリカ共和国ウグ郡ムタルメ・トカートン・ウムズンベ学区</p>	<p>南ア側 3人 日本側 3人</p>	<p>小・中・高1校 生徒の所属する地域サッカー3チーム</p> <p>生徒 500人 地域サッカーチーム 100人</p>	<p>100</p>
<p>合計</p>					<p>15,270</p>